

二一六

五
十
八

五
十
八

五
十
八

大日本國郡全圖

彩色摺
箱入 全二冊

此全圖ハ經國の大業に志する人をて地の理を知らしめ或ハ社歴の客廻國順拜の
人々勝槩とせしむ

神社佛閣などハ必用の書なり勿論
と盡く彩色をりて一快也ふやせ



新抄

中山美石先生著

全廿冊

本居其外諸大人の言説を悉く参考し先人未獲の自考
とせしむ

篠崎氏

卧遊奇談叙



黄帝ハ萬有ヲ統ビ淳生ハ南柯ニ對
 々然無と羨む乃々もいつのや陸羽
 まで事ハ子金ヲ亦外腕ヲ掩ムぬ事
 といふ事ハ終季のつづハ一記事もね
 雖今も東唐ノ想思すの昔もつづ
 一々記ラふ富嶽のつづ幾より
 奇絶ハ心を脱バ一めあふ長安ノ
 市ノ遊ビて佳處ヲ暇ヲ得寸ハ目ヲ

外社新法

一〇一

ナリ古昔ハ人ヲあへて事とあり
 一々記ラふ奇絶ハ鬼邪もあふ神仙も
 乃々夢中の遊ビは耽る奇男子あり因
 自々名も卧遊ト云ふ竟ハ耐々若ハ者
 然あを招きて四方ノ奇聞ヲ尋又酒と
 酌々閑人を伴へ古昔ノ佳話ヲ採り聞
 々々樂々ハ乃々之漸々遐迹ヲ尋ぐ
 群々水々ハ好事ハ夜月ハふぬく睡
 夢々ノ奇談月々ハ重々ハ夢々ハ卧遊

卧遊奇詮標題

卷一

英雄感孝心与金

卷二

琵琶秘曲泣幽霊
娼樓焼香驚五狐

外証非誤

一〇三

卷三

隱形奇術逃死囚
深山夜獵射妖怪

卷四

蜃氣樓上得再生

卷五

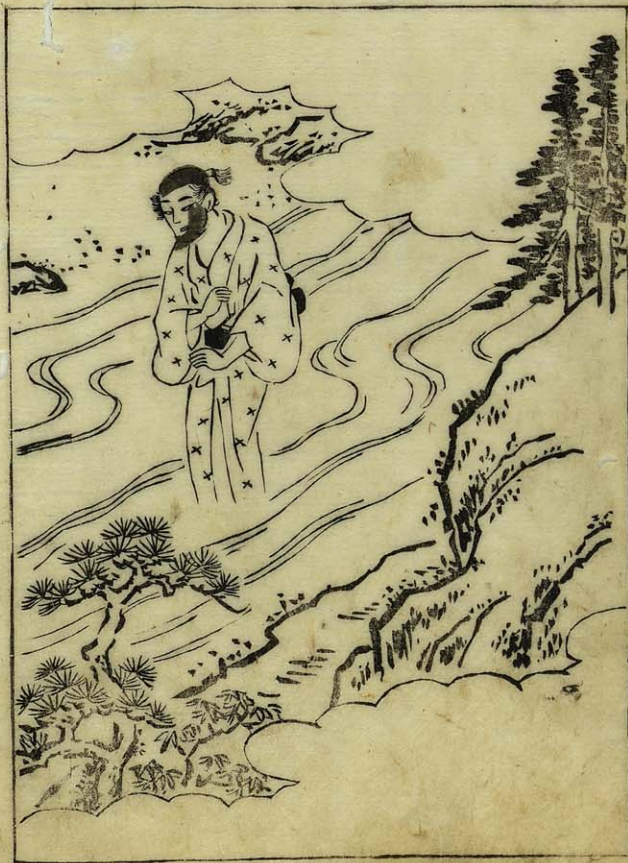
画圖生靈慰情人

卧遊奇談卷之一

英雄（イロウ）感（カン）孝（コウ）心（シン）与（ユ）金（キン）

心なりと虚霊不昧のふさぐて跡なりとや凡
人の霊はいつて後愛するべく愛わて後見もみど
そめくらんや爰は後心系家の鼻祖經傳新九帝
長氏未相例と領せざれば是るるべし
て之鴻より小田原の事なり已に戦帳はあき
享年をさぐいさう宿禰の事ありて
まより明と遠まで大道はゆるふそれ日の暮なり

たを^きと^もを^ぶゆ^つを^せま^んと^つと^りは^入男^と異^なふ
ま^まと^く長^き氏^しと^りる^もも^何と^喊人^{じん}で^目ら^るあ^んだ^ふ
事^{こと}と^結と^女の^そと^をと^りあ^はれ^るか^らに^しけ^で暖^{ぬく}
ふ^つと^りて^いん^とと^すぎ^やう^なく^長氏^しと^りる^も
あ^まれ^懐中^{ちゆう}に^備え^たる^もと^原と^同ひ^く事^{こと}に^めら^るあ^んだ^ふ
く^んで^顔面^{めん}ふ^とげ^ばや^うく^に思^{おも}は^る女^をい^はれ^るあ^んだ^ふ
あ^まと^くも^まう^とう^に旅^{りょ}人^{じん}の^はま^けあ^はれ^るあ^んだ^ふ
も^やあ^まれ^るあ^んだ^ふと^りる^もと^いふ^にし^けで^男と^異な^ふ
旅^{りょ}と^わけ^て旅^{りょ}人^{じん}の^はま^けあ^はれ^るあ^んだ^ふ
と^いふ^にし^けで^女と^異な^ふ



おのけ長成はむい今我意中にかきり人ありとも相見
まゐん^{わう}^{あつ}も君ふ勢幣より感ずるやうに只今の作也^{しん}^く^{さう}に
あざけめてよと云ふるとけうは恩討と云ふて云ねと
女徳を悦ぶ長成も府を定て我をもも途半に
あれたやう姉妹身並と合へうとてねやうとを獲
らる下しくあふ利をもる男あつて縁とてひいふ
付我内市憂とてくもの如く一樹の陰二河の流れ
れ^{しん}^{あん}他生の縁とていふた人は追うるか難儀とて云
まぐー我れ救ひぬきの百姓めく父と又賜らひ思ふと

一のてせすに親をカば事成れどべきとて
 尺をこゝとて尺をうぎめられ権理のいふやうに
 取に継個とつとつもふいふたうにてもあてまうあり
 まで終おつはあうひは事と知ちげどもあつて終おつは
 まふはああつと身き粘つ互とつにた刀やい振ふぎ―お累うらうんとま
 まあうと連ととは合あ調のいさゝとへまゝくい珍めづなれた身みううも
 我われもと死したは誰たれのいでも父ちちが難なん儀ぎのあまきとあまき
 といふ道のいふ我われも入いまべゆり起たきまはりて海うみと
 かなふかうにも大新九郎といふてひやじりく



我を越えぬい敵のうら極は着中にけらとけり我
と侍ゆめなりと一石は後より懐中に所持する
武將をわくことと下にあつて一軍軍用の要なり
と云ふも子なるを力にせむと人々を極む
ゆゑにわくも力にせむと人々を極む
夫婦をわくも力にせむと人々を極む
着るものも力にせむと人々を極む
夫婦よしむものも力にせむと人々を極む
夫婦よしむものも力にせむと人々を極む

